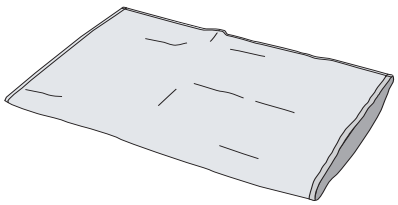
ハンディチューブ, モデル 100, 110, 120

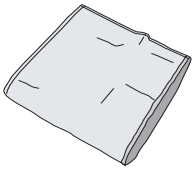
使用説明書

日本語

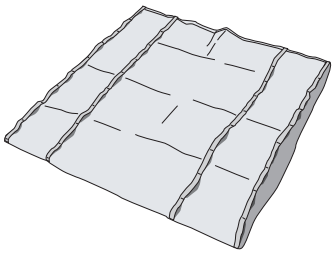
7JP160188-02



ハンディチューブ、ロング

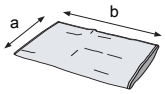
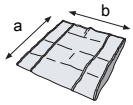


ハンディチューブ、ショート



ハンディチューブ、ワイド

製品概要

製品	モデル	製品番号	サイズ	寸法 (a x b)	
ハンディチューブ ショート、ハンドル無し	100	3710015	M	90 x 70 cm	
ハンディチューブ ロング、ハンドル無し	110	3711015	M	90 x 185 cm	
ハンディチューブ　ワイド、ハンドル有り	120	3712015	M	140 x 140 cm	

製品説明書

リコは摩擦の減少により利用者の移乗を楽にする為にハンディチューブを特別に開発しました。ハンディチューブは利用者と寝具間の摩擦を最小限にする低摩擦素材で製造されており、各種の状況において介助者の負担を軽減します。ハンディチューブは、例えば利用者をベッド上方に移動、寝返り、ベッドからベッド/担架に移動させる場合等に最適な補助具です。

この使用説明書における移乗方法は、スムーズかつ楽でなければならない事を念頭に入れて下さい。移乗が厄介で重く感じる場合には、リコの幅広いリフトと移乗移動製品への変更をお勧めします。

ハンディチューブは利用者を持ち上げたり、臥位から座位への体位変換をする目的ではありません。そのような場合には、リコの豊富なスリング・モデルを使用したリフトをお勧めします。

本説明書中では、リフトされる方を利用者と呼び、手助けをする方を介助者と呼びます。

△ は、特に注意が必要であることを示す警告マークです。

説明書をお読みください。使用説明書は、ホームページ www.liko.com から無料でダウンロードできます。

安全にお使いいただくために

ご使用前に必ず次の点をご確認ください

- いかなる状況下でも、ハンディチューブは利用者の持ち上げに使用してはなりません。
- 状況に合わせて必要な介助者数で利用ください。
- リフトの使用は利用者にとって安全でスムーズになるように計画してください。
- 移乗中は車椅子、ベッド、車輪付き担架などの車輪の口ックを確認してください。必要に応じてベッド用の柵を使用して下さい。
- ハンディチューブの素材は低摩擦ですべりやすいため、床又は車椅子の利用者の下に放置されると事故を引き起こすかも知れません。利用については注意を払い、必ず使用直後に取り外して下さい。使用されない時は収納するか架けておいて下さい。
- 人間工学を念頭において下さい。落ち着いて丁寧に作業し、真っすぐ立ち背筋を伸ばして下さい。ベッドは必要に応じて上昇あるいは下降させて下さい。反動は減らして利用者の近くで作業して下さい。

△ 重要事項！

利用者の移動には常にリスクが伴うものなので、リフト補助具の利用説明者を良くお読みください。利用説明書の内容が完璧に理解されている事が重要です。本製品は製品の使用の訓練を受けた要員のみが行って下さい。使用は注意深く丁寧に行って下さい。介助者として常に利用者の安全に関する責任を持つ事になります。利用者の移動 / 移乗をこなす能力を判定し認識しなければなりません。

ご不明な点は、製造者あるいは代理店にお尋ね下さい。

お手入れと保守

ハンディチューブは定期的に点検し、特に洗濯後には点検をして下さい。縫い目、生地、ストラップ、ハンドルの摩耗と損傷及び素材の摩擦に特に注意して下さい。損傷した製品は使用しないで下さい。

製品のラベルに書かれている注意事項を確認してそれに従って洗濯をしてください。

ご不明な点は、製造者あるいは代理店にお尋ね下さい。

CE 医療機器クラスI

Liko社のハンディチューブは、認定試験機関でテストされ医療機器クラスＩの製品としての要件を満たし、EN ISO 10535規格に適合しています。

登録意匠

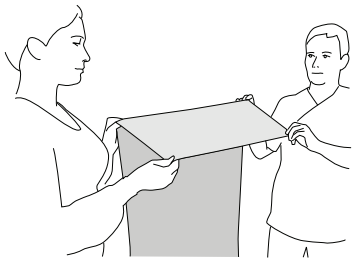
リコ社の製品は常に改良されており、予告なく製品変更をする権利を保持します。詳しい情報、ご相談、また製品の更新については、Liko社代理店へお問合せください。

Design and Quality by Liko in Sweden

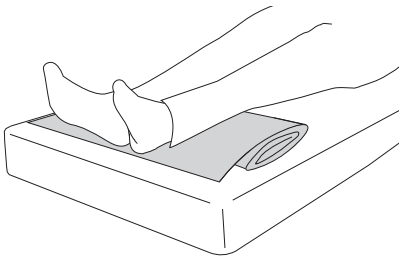
Liko社は、品質保証規定ISO 9001およびそれに相当する医療機器企業のための認可規定ISO13485、また環境認可規定ISO 14001に準拠しています。

© Copyright Liko AB 2012-05 • www.liko.com

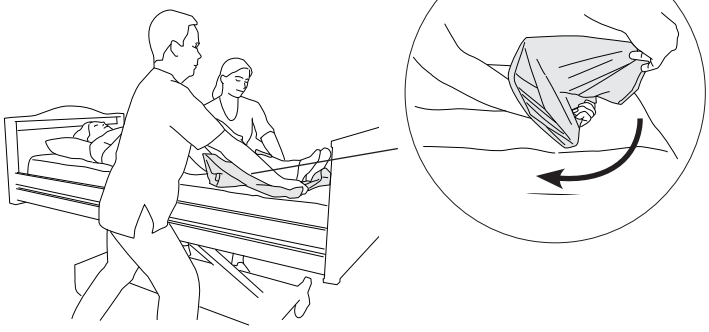
ハンディチューブの敷き方



ハンディチューブを全体が折りたたまれるまで、約 30 cm / 12 インチの長さにたたんで下さい。



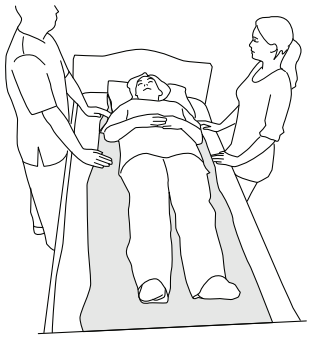
折り目がマットレスに向かって下向きになる様に、折りたたんだハンディチューブを利用者の足と足首の下に置いて下さい。



介助者は腕が利用者になるべく近くなるようにして、ハンディチューブの下部をつかみます。もう一方の手はハンディチューブの上部を持ち抵抗とします (小図参照) 。介助者は同時に一番目の折り目を利用者の下から引き出します。

ヒント! 引き出し動作中に手をマットレスに置いたまま動かすと簡単に出来ます。

手は真っすぐにして、体重の移動を利用して下さい。

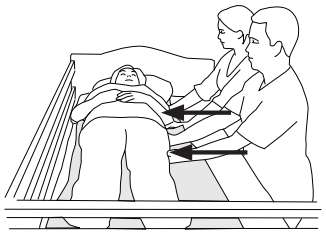


ハンディチューブが完全に利用者の下に敷かれるまで繰り返して下さい。ここで利用者を動かして寝返りを打たせます。この段階については、本取扱説明書にて後に扱います。

© Copyright Liko AB 2012-05 • www.liko.com

ハンディチューブ、ロング / ワイドを使用したベッドでの寝返り

ハンディチューブ、ロングの利用

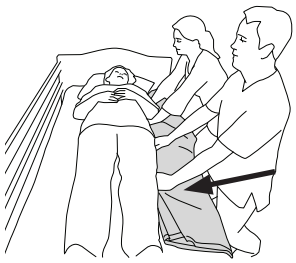


ハンディチューブを前述の指示 (3ページ) に従って置いて下さい。素材の滑りを利用して利用者を横向けに移動させて下さい。 利用者をベッドの片側に押して下さい。

ベッドは正しい高さにして作業して下さい。

△ ベッド用の柵を利用しましょう！

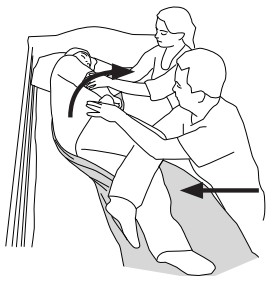
別の設置方法



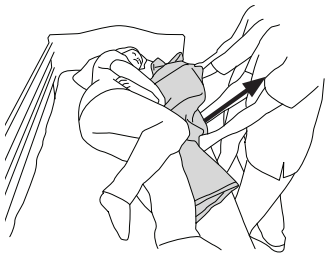
利用者の全身をカバー出来るようにハンディチューブを配置して下さい。ハンディチューブをマットレスに押しつけ、利用者の下に押し込まむ様にして下さい。出来るだけ深くハンディチューブを配置して下さい。

ベッドは正しい高さにして作業して下さい。

△ ベッド用の柵を利用しましょう！

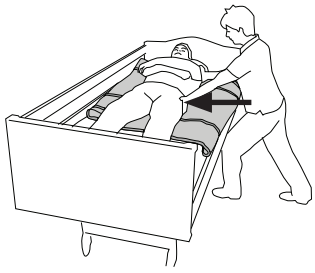


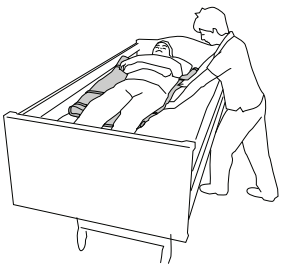
利用者を横向きにして下さい。ハンディチューブを取り外す前に利用者がベッドの真ん中にいる事を確認して下さい。



ハンディチューブが完全に外れるまで下の生地を引き出して、注意しながらハンディチューブを取り外して下さい。

ハンディチューブ、ワイドの使用

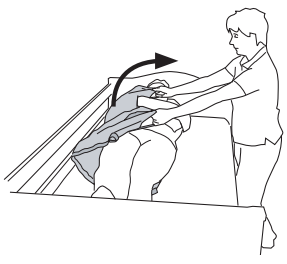




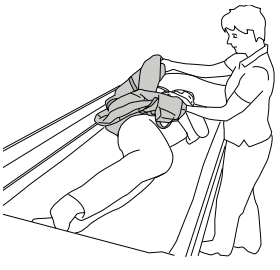
前述の指示(pg. 3)通りにハンディチューブを配置しますが、膝から初めて下さい。ハンディチューブはハンドル· ストラップが利用者に対して垂直になるように配置しなければなりません。素材の滑りを利用して利用者を横に移動して下さい。ハンディチューブを利用者が向かされる側に、利用者の下に押し込んで下さい。これでハンディチューブの取り外しが簡単になります。

ベッドは正しい高さにして作業して下さい。

△ ベッド用の柵を利用しましょう！



ハンディチューブのハンドルを利用して利用者を横向けにして下さい。

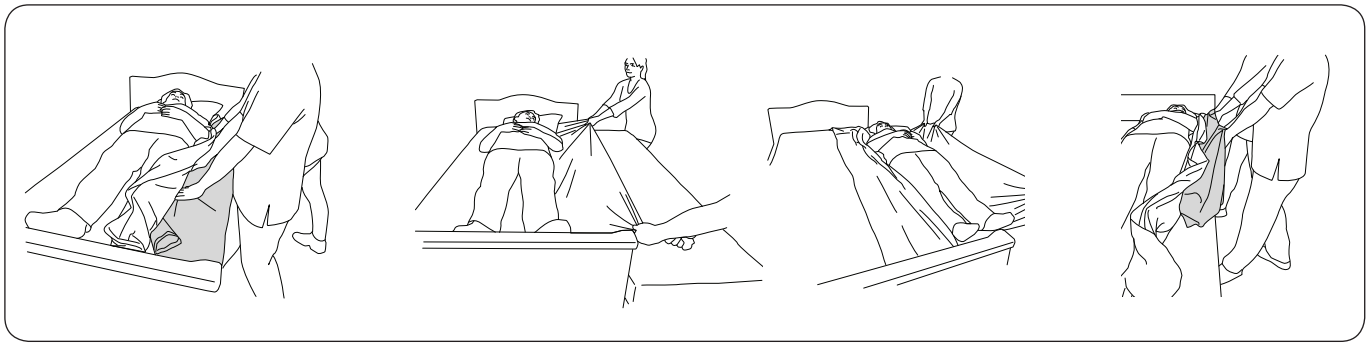


注意してハンディチューブを取り外します。

© Copyright Liko AB 2012-05 • www.liko.com

ハンディチューブ、ロング / ワイドを使用したベッド間の移動

ハンディチューブ、ロングの利用



ハンディチューブをシーツの下に配置して下さい。利用者の下になるべく深くハンディチューブを押し込みます。利用者の全身をカバー出来る事を確認して下さい。

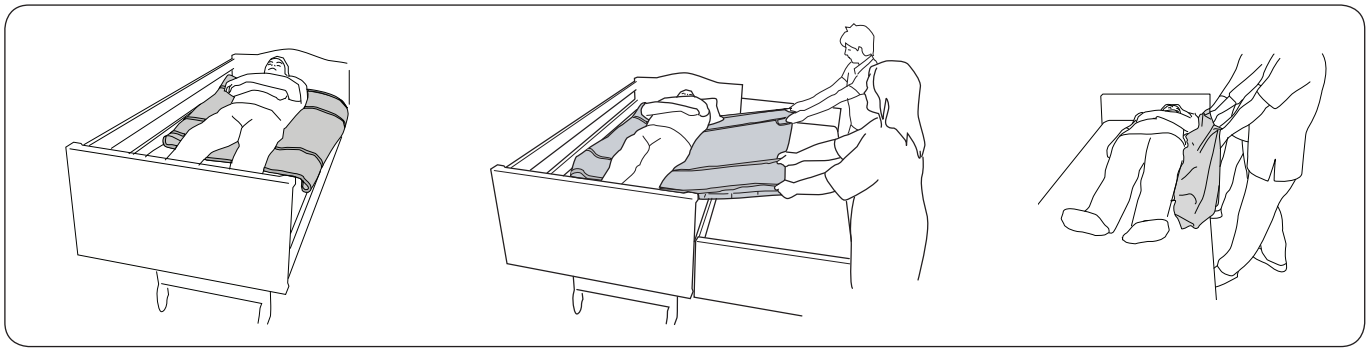
このタイプの移動は少なくとも二人の介助者が行う事を推奨します。利用者の体重や状態によっては、より多くの人員が必要かもしれません。

シーツがベッド上で動かせる状態を確認して下さい。シーツをつかみ、注意しながら利用者を隣接のベッド / 担架に引っ張ります。両方の表面を同じ高さにするか、或いは利用者が移されるベッド / 担架の方が少しだけ低い方が良いです。利用者を目的の位置に移動して下さい。

△ ベッド / 担架間の距離に注意を払って下さい。安全に移乗する為に利用者が体の下から充分に支持されている事を確認して下さい。必要に応じてボード等を使用して隙間を埋めます。

ハンディチューブ全体が外れるまで下の生地を引き、注意しながらハンディチューブを取り外します。

ハンディチューブ、ワイドの使用



前述の指示(pg. 3)通りにハンディチューブを配置しますが、膝から初めて下さい。ハンディチューブはハンドル· ストラップが利用者に対して垂直になるようにシーツ上に配置しなければなりません。

このタイプの移動は少なくとも二人の介助者が行う事を推奨します。利用者の体重や状態によっては、より多くの人員が必要かもしれません。

ハンディチューブのハンドルをつかみ、注意しながら利用者を隣接のベッド / 担架に引っ張ります。両方の表面を同じ高さにするか、或いは利用者が移されるベッド / 担架の方が少しだけ低い方が良いです！利用者を要求される位置に移動して下さい。

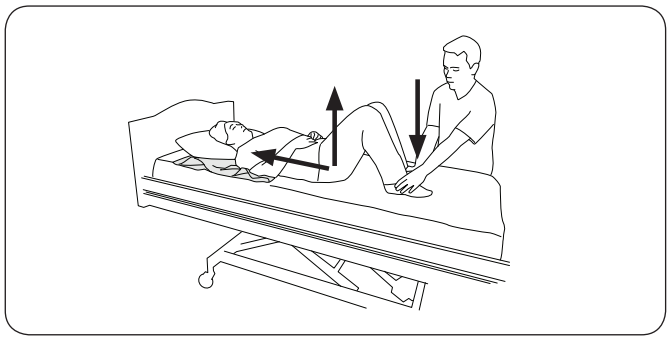
△ ベッド / 担架間の距離に注意を払って下さい。安全に移乗する為に利用者が体の下から充分に支持されている事を確認して下さい。必要に応じてボード等を使用して隙間を埋めます。

ハンディチューブはそれ自体の下に引き込みながら注意して取り外します。

© Copyright Liko AB 2012-05 • www.liko.com

ハンディチューブ、ショート、ワイドを利用してベッド上で上に移動する

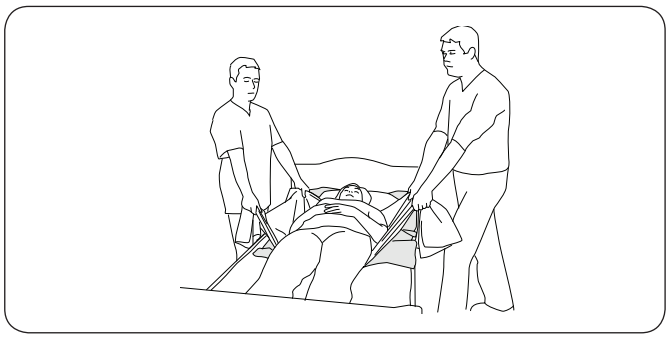
ハンディチューブ、ショートを利用



介助者 1 名にて
ハンディチューブを利用者の頭と肩の下に配置して下さい。利用者は膝を曲げ、介助者は利用者の足を抑えて摩擦を増加します。利用者は臀部を持ち上げ、同時にベッドで上の方に「押しあがる」様にします。

この方法では、利用者が足と体に残存された力 / 機能が必要です。

移動を更に簡単にする為にベッド足部を上げます！

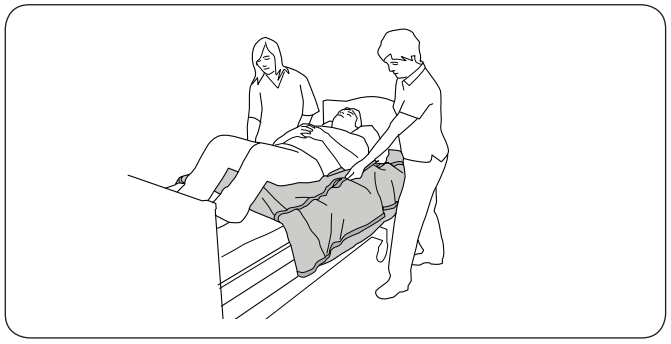


介助者 2 名にて
ハンディチューブを利用者の頭から臀部まで引き抜きシーツの下に配置します。介助者は立った位置で利用者の肩の線上に位置して、それぞれが引き抜きシーツの角をつかみます。介助者は後ろの足に体重を移動して利用者をベッドで上に動かします。利用者が目的の位置にいくまでこの手順を繰り返します。

人間工学を念頭に置きましょう – 腕で引っ張らない様にして下さい。

移動を更に簡単にする為にベッド足部を上げます！

ハンディチューブ、ワイドの使用



前述の指示(pg. 3)通りにハンディチューブを配置しますが、膝から始めて下さい。ハンディチューブのハンドルを使って利用者をベッドで上方に引き上げて下さい。

人間工学を念頭に – 真っすぐ立った位置で背筋を伸ばしましょう。

© Copyright Liko AB 2012-05

Liko
A Hill-Rom Company

www.liko.com

製造業者：
Liko AB
Nedre vägen 100
SE-975 92 Luleå
Sweden
info@liko.se

7330925721609